

回覧														
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

アクティブ長洲小

長洲町立長洲小学校だより
 令和3年1月15日第16号
 文責 校長 川富 一弘

0学期始まる

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願います。

冬休みはおかげさまで大きな事故や病気等もなく、無事に学校を再開することができました。ご家庭や地域の方々の見守りのお陰だと感謝しております。また始業日明けの3連休は数年に一度の寒波襲来で本校運動場も一面真っ白になっておりました。運動場を見ながら、子ども達が居ればきっと雪合戦だっただろうに、とちょっと残念でもありました。



さて、1月からのこの時期、かつては3学期という言葉もありましたが、荒尾玉名管内は2学期制のため、このような言い方はしません。現場では、後期後半と便宜上言っていますが、本校ではこれを『0学期』と

先生方には考えるように伝えていきます。つまり、3月までを次年度に向けた準備期間とするわけです。初日の7日は、学校集会もコロナ及び低温により校内放送による校長講話を子ども達に行いましたが、残りの3か月を学年の締めくくりと進級への準備をしっかりとがんばることを話しました。学年の締めくくりと併行して次年度準備を進めていかなければなりません。各担任をはじめ全職員が、こんな時期と状況だからこそ、知恵と創意と情熱を結集して3か月を有意義に子ども達とともに進んでいきます。

<1/9朝の運動場：一面銀世界>

『箱根』『大学ラグビー』に感動と学び



<襷を渡して倒れ込む選手>

世間の人々の多くが正月気分浸っている時ですが、今年も箱根に集う若者に大きな感動と勇気をもらいました。どの大学を応援する訳でもないのですが、己の母校の襷を懸命につなげようと走るその姿にいつしか自分を重ねて観てしまいます。番狂わせもあり、逆転もあり、そして繰り上げスタートもある。それでも必死に前を向いて走る選手達の脳裏には何があるのか、なぜそうまでして頑張れるのか考えてしまいます。

また、先日は大学ラグビー日本一を決める決勝戦が行われ、王者早稲田に対して、何度も決勝まで進むものの準優勝どまりの天理でした。結果は、天理の初優勝だったのですが、中でもそのキャプテンのチームを鼓舞する姿やインタビューでのその表情に心を揺さぶられました。コロナ禍で練習もままならない中、ただただ前向きに、大会での優勝、ただその一点を信じて、集中し、練習を積んできたのでしょうか。

駅伝とラグビーの異なる競技ですが、両者に共通するのは、目標に向かう人の直向きさです。その眼差しや表情が観る側に様々な問いと学びを与えてくれる、そこが魅力なのだと思えました。



<喜びより感謝を伝えるキャプテン>

読書のすすめ ~コロナ禍を有意義に過ごすために~

新型コロナ感染が猛威を振るっており、2回目の緊急事態宣言が、全国へと広がりつつあります。感染予防と言っても、どこまですればいいのか、見えない敵との生活に、誰もがストレスを感じているこの頃です。三密を避ける他には、極力外出しないこと、これしかないですよ。となれば、在宅時間をいかに有意義に過ごすか、そこでお勧めなのが、読書です。もちろん、あらためて言うまでもなく読書に限らず他の趣味や家事でお忙しい方もいらっしゃると思いますが、少々お耳をお貸しください。



本を読むと何が得か？今更ながら確認しましょう。

- ①自分の世界を広げてくれる
- ②集中力とバランス感覚の向上です。
- ③読書で10人に1人の存在になれる

どうでしょう。①と②はなんとなく理解できますよね。要は③です。③は、読書する時間、つまりは自由に使える時間を何に使うか、という点で、ゲームなど娯楽やレジャーに費やす人が多い中、ゲームしている人と読書している人とは、得るものの内容と質に差が出るという事です。

です。端的に言えば、10人中9人が遊ぶ中で、1人だけ成長できるというわけです。決して遊ぶことが悪いと言うつもりはありませんが、フリーな時間を読書に費やすことの意味はおわかりいただけだと思います。

ただ、読書週間を身に付けるには、一定期間の強制的な時間設定が必要です。そうすると読書のよさを体感することで、暇な時間を見つけては本を手にとってみようという習慣が形成されます。そしてできるだけ多くのジャンルを読むことです。そのことが、いろんな得た知識を絡ませて新しい価値観や考え方を手に入れる事ができるようになるのです。「読書の冬」とは言いませんが、コロナをプラスに捉えて、まずは曜日や時間帯を決めて、テレビを消して親子で読書に親しんでみませんか。

将来の夢・・・「あなたは何になりたいですか？」

よく聞かれるこの質問、特に卒業を控えた6年生にはよくこうした質問をすることがあります。6年生でなくてもひょっとしたら幼稚園保育園児にも聞くことがあるかもしれませんね。でも、あらためて考えたときに、この質問は果たして適切な問いであるかどうか考え直す必要があるかもしれません。

2020年度「小学生 将来就きたい職業ランキング」の一例

<男の子>		<女の子>	
1位	スポーツ選手	1位	ケーキ屋・パン屋
2位	警察官	2位	芸能人・歌手・モデル
3位	運転士・運転手	3位	看護師
4位	消防士・レスキュー隊	4位	花屋
5位	TV・アニメキャラクター	5位	保育士
6位	研究者	6位	アイスクリーム屋
7位	ケーキ屋・パン屋	7位	医師
8位	医師	8位	教員
9位	大工・職人	9位	警察官
10位	ユーチューバー	10位	美容師

これは、子ども達の知識の中にある職業から選ばれたものですが、世の中にはご存知のとおり多種多様な職業があり、小学生であれば、まあこんなものだろうと想定範囲内の結果とも言えます。しかし、どうでしょう、AIの進化やグローバル化で、10年先にはおよそ半数の仕事がなくなるといふ説もあります。ということは子ども達が社会に出る頃には、今はない仕事に就くことが出てくることとなります。そう考えると冒頭の質問はおかしいと思いませんか。

あなたは将来何になりたいですか？、ではなく、あなたはどんな事をしたいですか？、どんなことで社会のために役立とうと思いませんか？となりませんか。では、そんな次世代を生きる子ども達に学校はどんな力を身に付けなければならぬのでしょうか？そんなことを考えながら今日の学校の在り方を練っているところです。